

令和4年度
小規模多機能型居宅介護
清流の里

サービス評価（外部評価）

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 令和 4年 9月 21日(水曜日)

1. 初期支援 (はじめのかかわり)

メンバー 大井、吉村、山田、佐々木、坂本、野原、小笠原、佐藤、渡辺、黒田

I. 個人チェック項目集計

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか?	3	6	1	0	10
①	本人の情報やニーズについて、利用開始前にミーティング等を通じて共有していますか?	4	6	0	0	10
②	サービス利用時に、本人や家族・介護者が、まず必要としている支援ができていますか?	5	5	0	0	10
③	本人がまだ慣れていない時期に、訪問や通いで声掛けや気遣いができていますか?	6	4	0	0	10
④	本人を支えるために、家族・介護者の不安を受け止め、関係づくりのための配慮をしていますか?	5	5	0	0	10

II. 前回の改善計画に対する取組み状況

① 前回の改善計画	<ul style="list-style-type: none">・今まで通り、毎月のスタッフ会議前に担当職員とケアマネジャーが話し合いを持つことを継続する。・利用者と職員と一緒に話し合いを持ち、利用者に対する理解を深めるため、個別にコミュニケーションを取る時間を作る。・利用者情報の引継ぎについて、スタッフ全員が目を通したかわかるチェック表を再開する。・特に新規の利用者には、担当職員をはじめ、職員たちがゆっくり・しっかりと関わる時間を積極的に作り、利用者に不安を持たせない関わりをする。
② 前回の改善計画に対する取組み結果	<p>A:よくできている B:おおむねできている C:あまりできていない D:まったくできていない</p> <p>利用者情報に事前に目を通すことで、利用者情報を把握することができ、また、利用者の状況を把握するためにも利用者とのコミュニケーションに時間を取れている。</p> <p>一方、職員間において、利用者情報の共有が十分ではない場合がある。</p>

③ 前回の改善計画に対する取組み結果
について、できている点

- ・利用者とのコミュニケーションの時間は従来よりも取れている。
- ・利用者についての情報には、事前に目を通せるようになった。

④ 前回の改善計画に対する取組み結果
について、できていない点

- ・担当ケアマネと十分に話し合えていない。
- ・引継ぎは全員に周知できない場合がある。不定期勤務のパートタイマーまで情報共有することが難しく、今後の課題である。
- ・引継ぎ等のチェック表で抜けている項目があるので整理し直す必要がある。

Ⅲ. 現状の取組みについて

I-①～④、及びその他について改善が必
要な点

- ・事前の情報共有に努めているが、すべての職員が内容を把握することが難しいのが現状である。そのため、常勤職員から不定期勤務のパートタイマーまでどのように周知するかが課題である。

Ⅳ. 次回までの具体的な改善計画 ※Ⅱ-④、Ⅲを中心に導き出した結果

- ・各職員がリーダー会議までに利用者情報の変化等についてケアマネに報告する。
- ・利用者情報を修正・更新した場合は、リーダー等に報告し、リーダー会議と全体会議で共有する。

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 令和 4年 9月 21日(水曜日)

2. 「～したい」の実現 (自己実現の尊重)

メンバー 大井、吉村、山田、佐々木、坂本、野原、小笠原、佐藤、渡辺、黒田

I. 個人チェック項目集計

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	前回の課題について取り組めましたか？	2	7	1	0	10
①	「本人の目標 (ゴール)」がわかっていますか？	0	10	0	0	10
②	本人の当面の目標「～したい」がわかっていますか？	3	7	0	0	10
③	本人の当面の目標「～したい」を目指した日々のかかわりができていますか？	3	7	0	0	10
④	実践した (かかわった) 内容をミーティングで発言し、振り返り、次の対応に活かしていますか？	2	8	0	0	10

II. 前回の改善計画に対する取組み状況

① 前回の改善計画	<ul style="list-style-type: none"> ・どのような立場の職員であっても、気が付いたことがあれば、リーダーやケアマネジャーに報告し、記録に残す習慣をつける ・ケアプランとアセスメントについて、少なくとも担当職員には説明し、改善が必要な点は修正した上で、各職員に周知する。
② 前回の改善計画に対する取組み結果	<p>A: よくできている B: おおむねできている C: あまりできていない D: まったくできていない</p> <p>利用者とのかかわりの中での気づきがある程度共有できている。 ケアプランの把握については、職員全体まで十分にできていない。</p>

③ 前回の改善計画に対する取組み結果
について、できている点

- ・気が付いたことをリーダーやケアマネに報告し、記録に残すことができている。
- ・ケアプランに変更があった場合は日報に書いて、各職員に確認してもらうよう周知している。

④ 前回の改善計画に対する取組み結果
について、できていない点

- ・ケアプランの内容を確認し、サービス提供内容や目標などを把握することが十分できていない。

Ⅲ. 現状の取組みについて

I-①～④、及びその他について改善が必
要な点

- ・ケアにおける利用者の課題や目標を共有する必要がある。
- ・そのためにアセスメントやケアプラン情報をどのように全体で把握し、理解していくかが改善点である。

Ⅳ. 次回までの具体的な改善計画 ※Ⅱ-④、Ⅲを中心に導き出した結果

- ・担当職員はケアプランを確認した上でアセスメントを行ない、それをケアマネに報告する。
- ・担当職員とケアマネが話し合うために、十分な時間を設ける。

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 令和 4年 9月 21日(水曜日)

3. 日常生活の支援

メンバー 大井、吉村、山田、佐々木、坂本、野原、小笠原、佐藤、渡辺、黒田

I. 個人チェック項目集計

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	前回の課題について取り組めましたか?	5	5	0	0	10
①	本人の自宅での生活環境を理解するために「以前の暮らし方」が10個以上把握できていますか?	2	6	2	0	10
②	本人の状況に合わせた食事や入浴、排せつ等の基礎的な介護ができていますか?	7	3	0	0	10
③	ミーティングにおいて、本人の声にならない声をチームで言語化できていますか?	1	8	1	0	10
④	本人の気持ちや体調の変化に気づいたとき、その都度共有していますか?	6	4	0	0	10
⑤	共有された本人の気持ちや体調の変化に即時的に支援できていますか?	5	5	0	0	10

II. 前回の改善計画に対する取組み状況

① 前回の改善計画	<ul style="list-style-type: none"> ・職員同士で情報を共有し合い、わからないことは確認する。 ・利用者の気持ちや体調の変化に気づいたら、周知する。 ・利用者本人の状態に合わせ、過ごしやすい環境を作るために職員間で話し合い、質の良いサービスを提供する。
② 前回の改善計画に対する取組み結果	<p>A: よくできている B: おおむねできている C: あまりできていない D: まったくできていない</p> <p>利用者の心身の変化に注意し、気づきを共有できている。</p> <p>また、実際の利用者の状態に合わせて過ごしやすい環境を作り、より良いサービスの提供ができています。</p>

③ 前回の改善計画に対する取組み結果
について、できている点

スタッフ会議、朝のミーティングで利用者の体調変化等の情報を共有し、サービスにつなげている。
ケアマネに確認した事項は周知して共有するようにしている。

④ 前回の改善計画に対する取組み結果
について、できていない点

スタッフ会議で情報の共有はできるが、職員の意識統一までは難しい。
利用者がすごしやすい環境作りについて話し合う機会を増やす必要がある(コロナの影響で変化が大きい)。
利用者本位ではなく職員本位・事業所本位の支援方法を取る場合があった。

Ⅲ. 現状の取組みについて

I-①～④、及びその他について改善が必
要な点

利用者との個別の関わりの中で、十分にコミュニケーションを取り、利用者の心身の理解に努め、声になら
ない声を察知できるように事業所全体で話し合い、さまざまな情報を共有できるようにする。

Ⅳ. 次回までの具体的な改善計画 ※Ⅱ-④、Ⅲを中心に導き出した結果

利用者一人一人への理解を深め、心身の変化や利用者の状況、思いを踏まえたサービス提供につなげる。
利用者が過ごしやすい環境を作るための話し合いの機会を増やす。
改めて「利用者本位」の支援方法をしっかりと踏まえ、職員本位・事業所本位にならないようにする。

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 令和 4年 9月 21日(水曜日)

4. 地域での暮らしの支援

メンバー 大井、吉村、山田、佐々木、坂本、野原、小笠原、佐藤、渡辺、黒田

I. 個人チェック項目集計

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか？	4	6	0	0	10
①	本人のこれまでの生活スタイル・人間関係等を理解していますか？	2	7	1	0	10
②	本人と、家族・介護者や地域との関係が切れないように支援していますか？	1	8	1	0	10
③	事業所が直接接していない時間に、本人がどのように過ごしているか把握していますか？	1	8	1	0	10
④	本人の今の暮らしに必要な民生委員や地域の資源等を把握していますか？	0	10	0	0	10

II. 前回の改善計画に対する取組み状況

① 前回の改善計画	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ対策を継続していく。 ・コロナが収束したら、改めて地域の集まりや行事などに参加し、地域とのつながりを大切にしていく。 ・利用者が住み慣れた地域で楽しみを持ちながら暮らせるように努める。
② 前回の改善計画に対する取組み結果	<p>A:よくできている B:おおむねできている C:あまりできていない D:まったくできていない</p> <p>継続しているコロナ禍のため、地域に出ることは困難ではあるが、感染防止対策を取りながら地域との関わりの機会を少しずつ設けることができている。</p>
③ 前回の改善計画に対する取組み結果について、できている点	<p>感染防止対策の徹底ができている（マスク、消毒、換気など）。</p> <p>感染防止対策をしながら祭りに参加したり、事業所近辺を散歩したり、ドライブしたりできている。</p> <p>特に祭りや地域のサロンに参加できる機会が増えてきた。</p>

④ 前回の改善計画に対する取組み結果
について、できていない点

継続するコロナ禍の中、「利用者が住み慣れた地域で楽しみを持って」何をどうすればいいのかわからなくなつた時もある。

③のように参加できる地域行事が増えてきた一方で、コロナの影響で従来あった地域との関わりが減ってしまった。

Ⅲ. 現状の取組みについて

I-①～④、及びその他について改善が必
要な点

独居生活の利用者は地域との関わりが希薄な場合が多いためアセスメント時により注意を払う必要がある。地域資源や民生委員をどのように活用するかまでは考えが至っていない。

事業所が支援する時間外における、利用者と地域との関わりを把握することに難しさを感じている（事業所外の利用者の生活史、実際の生活場面すべてを把握することは非常に難しい）。

Ⅳ. 次回までの具体的な改善計画 ※Ⅱ-④、Ⅲを中心に導き出した結果

感染防止対策を継続しつつ、コロナ禍であっても利用者が楽しみを持てるような取組みをしていく。感染防止対策の他にも少人数に分けるなどの工夫をしながら、地域とのつながりを回復できるようにする。

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 令和 4年 9月 21日(水曜日)

5. 多機能性ある柔軟な支援

メンバー 大井、吉村、山田、佐々木、坂本、野原、小笠原、佐藤、渡辺、黒田

I. 個人チェック項目集計

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	前回の課題について取り組めましたか？	4	6	0	0	10
①	自分たち事業所だけで支えようとせず、地域の資源を使って支援していますか？	3	6	1	0	10
②	ニーズに応じて「通い」「訪問」「宿泊」が妥当適切に提供されていますか？	7	3	0	0	10
③	日々のかかわりや記録から本人の「変化」に気づき、ミーティング等で共有することができますか？	6	4	0	0	10
④	その日・その時の本人の状態・ニーズに合わせて柔軟な支援ができていますか？	6	4	0	0	10

II. 前回の改善計画に対する取組み状況

① 前回の改善計画	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者への個別支援対応ができる環境をつくる。 ・ケアプランの見直しをより積極的に行い、必要に応じて適切な介護等サービスを検討する。
② 前回の改善計画に対する取組み結果	<p>A:よくできている B:おおむねできている C:あまりできていない D:まったくできていない</p> <p>利用者への個別支援の環境を作り、サービス提供ができています。 ケアプランの見直しを必要に応じて適切に行うことができています。</p>

③ 前回の改善計画に対する取組み結果について、できている点	200字程度で、できていることと、その理由を記入すること
<p>利用者の状況に応じてケアプランの見直しができている。個別支援ができる環境を作り、必要に応じて個別支援サービスを提供している。利用者それぞれに合った対応ができている。ケアプランの見直しは適切にされており、利用者にどんな支援等が必要かの見極めができている。その日の変化を見逃さないように気を付けている。ミーティング等で話し合った結果、改善が必要な時は早急に対応している。介護員の独断ではなくケアマネの意見や判断を活かしながらサービス提供ができている。</p>	
④ 前回の改善計画に対する取組み結果について、できていない点	
<p>事業所内の設えを変えるなどの対応は難しく、今の事業所内で個別支援をこのまま行ってよいのか不安が残る。</p> <p>個別支援のアイデアは出るものの、予算、家族の考え、スタッフの意識等を踏まえるとハードルが低いとは言えず、迅速・柔軟な支援につなげにくい状況である。</p>	

Ⅲ. 現状の取組みについて

Ⅰ－①～④、及びその他について改善が必要な点	
<p>利用者本人の状態、ニーズに合わせ柔軟な支援を心掛けているが、地域資源は活用しきれていない。</p>	

Ⅳ. 次回までの具体的な改善計画 ※Ⅱ－④、Ⅲを中心に導き出した結果

<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、利用者への個別支援対応ができる環境をつくる。 ・引き続き、ケアプランの見直しをより積極的に行い、必要に応じて適切な介護等サービスを検討する。 ・利用者とその家族への理解をより深め、利用者と家族のニーズに沿ったサービスを提供していくよう心掛ける。
--

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 令和 4年 9月 21日(水曜日)

6. 連携・協働

メンバー 大井、吉村、山田、佐々木、坂本、野原、小笠原、佐藤、渡辺、黒田

I. 個人チェック項目集計

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか？	3	3	4	0	10
①	その他のサービス機関（医療機関、訪問看護、福祉用具等の他事業所）との会議を行っていますか？	4	4	2	0	10
②	自治体や地域包括支援センターとの会議に参加していますか？	4	3	2	1	10
③	地域の各種機関・団体（自治会、町内会、婦人会、消防団等）の活動やイベントに参加していますか？	3	6	1	0	10
④	登録者以外の高齢者や子ども等の地域住民が事業所を訪れますか？	0	6	2	2	10

II. 前回の改善計画に対する取組み状況

① 前回の改善計画	<p>・コロナ禍が今後も続くようであれば、地域との交流が制限されたままになってしまう。このような状況を脱するために、事業所が地域に出向くような企画を立て、オンラインや ICT 機器等を活用しながら交流する機会を作る。</p>
② 前回の改善計画に対する取組み結果	<p>A: よくできている B: おおむねできている C: あまりできていない D: まったくできていない</p> <p>感染防止対策を取りながら、少しずつ地域との関わりを増やすことができている。</p>
③ 前回の改善計画に対する取組み結果について、できている点	<p>消防団などの地域交流ができた。</p> <p>あいの里利用団体に対して困りごとなどを聞く交流ができた。</p> <p>オレンジカフェを2ヵ月に1回開催できた。</p>

④ 前回の改善計画に対する取組み結果
について、できていない点

地域に出向くような企画ができていない。
オレンジカフェを開催できた一方で、参加者はコロナ禍で激減している。
事業所内で地域住民との交流はまだ難しい状況である。

Ⅲ. 現状の取組みについて

I-①～④、及びその他について改善が必
要な点

今後も利用者に楽しんでいただく行事や外出の機会を作り、コロナ禍でも楽しめるような環境作りに努める。
地域住民や子どもたちが事業所を訪れる機会が激減したので回復させることが必要。
オンラインやICTを活用した地域交流には至っていない。

Ⅳ. 次回までの具体的な改善計画 ※Ⅱ-④、Ⅲを中心に導き出した結果

- ・感染防止対策を講じながら、事業所が地域に出向く取組みをする。
- ・地域住民や子どもたちとの交流の場を作る。

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 令和 4年 9月 21日(水曜日)

7. 運営

メンバー 大井、吉村、山田、佐々木、坂本、野原、小笠原、佐藤、渡辺、黒田

I. 個人チェック項目集計

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	前回の課題について取り組めましたか？	5	5	0	0	10
①	事業所のあり方について、職員として意見を言うことができますか？	4	5	1	0	10
②	利用者、家族・介護者からの意見や苦情を運営に反映していますか？	7	3	0	0	10
③	地域の方からの意見や苦情を運営に反映していますか？	5	5	0	0	10
④	地域に必要とされる拠点であるために、積極的に地域と協働した取り組みを行っていますか？	3	5	2	0	10

II. 前回の改善計画に対する取組み状況

① 前回の改善計画	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、広報を活用し、事業所を知ってもらう機会を作る。 コロナ禍で夏祭りやオレンジカフェなど、地域交流行事も開催できていないため、介護と困りごと相談を気軽にできる拠点のひとつであることのPRを強化する。
② 前回の改善計画に対する取組み結果	<p>A:よくできている B:おおむねできている C:あまりできていない D:まったくできていない</p> <p>清流の里だよりの発行、オレンジカフェや夏祭り等の行事は開催できている。</p>
③ 前回の改善計画に対する取組み結果について、できている点	<p>広報委員を中心として、清流の里だよりの発行や社協だよりのリニューアルを通じて事業所情報のPR等ができている。</p> <p>コロナ禍でもオレンジカフェや夏祭り等の再開はできている（規模は縮小の場合あり）。</p>

④ 前回の改善計画に対する取組み結果
について、できていない点

行事の開催はできているが、地域住民や家族の参加ができていなかったため、PRの方法については改善の余地がある。

地域の困りごと相談窓口としての機能については、地域へ浸透していないと思われるので、これからもPRしていく必要がある。

Ⅲ. 現状の取組みについて

I-①～④、及びその他について改善が
必要な点

事業所が地域に出向くという点ではアピール不足である。

今後、清流の里をより地域に知ってもらう機会を積極的に作るのが課題。

地域住民の意見をあまり聞けていないと感じる。

Ⅳ. 次回までの具体的な改善計画 ※Ⅱ-④、Ⅲを中心に導き出した結果

- ・引き続き、広報を活用し、事業所を知ってもらう機会を作る。
- ・引き続き、夏祭りやオレンジカフェなど、地域交流行事を開催できるよう工夫する。
- ・清流の里が介護と困りごと相談を気軽にできる拠点のひとつであることのPRをより強化する。

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 令和 4年 9月 21日(水曜日)

8. 質を向上するための取組み

メンバー 大井、吉村、山田、佐々木、坂本、野原、小笠原、佐藤、渡辺、黒田

I. 個人チェック項目集計

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	前回の課題について取り組めましたか?	10	0	0	0	10
①	研修(職場内・職場外)を実施・参加していますか	10	0	0	0	10
②	資格取得やスキルアップのための研修に参加できていますか	9	1	0	0	10
③	地域連絡会に参加していますか	8	1	0	1	10
④	リスクマネジメントに取り組んでいますか	7	3	0	0	10

II. 前回の改善計画に対する取組み状況

① 前回の改善計画	<ul style="list-style-type: none"> ・ヒヤリハットの改善策について、会議等で報告・周知し、職員全体で共有する。 ・研修等で得た知識・技術等は全体への周知(会議・書面で)を徹底する
② 前回の改善計画に対する取組み結果	<p>A:よくできている B:おおむねできている Cあまりできていない D:まったくできていない</p> <p>ヒヤリハットで報告された内容については共有・対応できている。</p> <p>研修で得たものについては欠席者にも周知し、実践するようにしている。</p>
③ 前回の改善計画に対する取組み結果について、できている点	<p>研修にはなるべく全員が参加できるようにし、そこで得た知識や技術は実践するように心がけている。</p> <p>研修だけでなくスタッフ会議でも毎回のように勉強している。</p> <p>ヒヤリハットが出た場合は、書面で回覧し共有し、リーダー会議・スタッフ会議でも振り返り、同じ内容を繰り返さないよう努めている。</p> <p>また、ラインワークスを活用して迅速な対応、周知を行なっている。</p>

④ 前回の改善計画に対する取組み結果
について、できていない点

なるべく多くの職員に研修に参加できるようにしているが、参加へのモチベーションには差がある。
個人で参加した研修の報告や情報共有が十分ではない。

Ⅲ. 現状の取組みについて

I-①～④、及びその他について改善が必
要な点

運営推進会議以外の地域会議にも参加する必要がある。
研修の目的を十分に理解してもらう必要がある。
夜勤等で研修に参加できない人向けに動画などがあるといいと思う。

Ⅳ. 次回までの具体的な改善計画 ※Ⅱ-④、Ⅲを中心に導き出した結果

運営推進会議以外の地域会議にも参加する。
研修等で得た知識・技術等を全体に周知する。
研修に参加できない場合でも動画や資料等を見て内容を確認できるようにする。

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 令和 4年 9月 21日(水曜日)

9. 人権・プライバシー

メンバー 大井、吉村、山田、佐々木、坂本、野原、小笠原、佐藤、渡辺、黒田

I. 個人チェック項目集計

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計(総人数)
①	前回の課題について取り組めましたか?	4	5	1	0	10
①	身体拘束をしていない	9	1	0	0	10
②	虐待は行われていない	8	2	0	0	10
③	プライバシーが守られている	5	5	0	0	10
④	必要な方に成年後見制度を活用している	10	0	0	0	10
⑤	適正な個人情報の管理ができている	6	4	0	0	10

II. 前回の改善計画に対する取組み状況

① 前回の改善計画	<ul style="list-style-type: none"> ・休憩時間の場所を決め、利用者についての話題を公然としないように強く心がけるとともに、職員間でも声を掛け合って、利用者のプライバシーを守るようにする。 ・より適切なコミュニケーションにむけて、重度の認知症の利用者への理解を深めるためには実際にその利用者とは接することが大切であるため、他の職員まかせにせず、それぞれの職員が積極的に利用者に関わることが必要である。 ・レクレーションやホール担当の職員をバランスよく役割分担し、できる職員の層を厚くすることで、継続的に安定したサービスを提供できる体制を作る。 ・利用者に対する言動が適切ではない職員に対して、お互いに指摘し合い、改善につなげられるような職場環境を作る。
② 前回の改善計画に対する取組み結果	<p>A:よくできている B:おおむねできている Cあまりできていない D:まったくできていない</p> <p>事業所内での利用者のプライバシーへの配慮はできている。</p> <p>利用者の状態に合わせて適切な言葉で声掛け・コミュニケーションを取るようになっている。</p> <p>レクレーションの担当割り当てはバランス良くできるようになった。</p>

③ 前回の改善計画に対する取組み結果
について、できている点

利用者のプライバシーへの配慮については職員の意識は改善されている。休憩時間に利用者のプライバシーに係る会話をしなくなった。

利用者の状態に合わせて、適切な方法でコミュニケーションを取るよう努めている。

レクレーション担当、ホール担当など、適切に役割分担し、お互いの様子に配慮できている。

レクレーションは職員全員で盛り上がるように協力できている。

積極的に利用者に関わり、安定したサービスを提供できる体制を作っている。

④ 前回の改善計画に対する取組み結果
について、できていない点

利用者対応する職員が固定されている場合がある。

職員同士で問題を直接指摘することが難しく、後になって「あの時の対応は良くなかった」という意見がでるなど、言うべきタイミングを逃してしまうことがある。

休憩時間の職員の話声が大きすぎることもある。

利用者に対する言葉遣いが適切ではないことがあった。

以前に比べてレクレーション担当割り当てのバランスは良くなったものの、もっと多くの職員にレクレーションを担当してもらえる必要がある。

Ⅲ. 現状の取組みについて

I-①～④、及びその他について改善が必
要な点

職員の会話の声が大きく、利用者についての情報が他の利用者に聞こえているおそれがある。

「ちょっと待ってね」など利用者の言動を抑制するスピーチロック（言葉による拘束）になりかねない声掛けが見られるので、注意が必要である。

Ⅳ. 次回までの具体的な改善計画 ※Ⅱ-④、Ⅲを中心に導き出した結果

・スピーチロックにならぬよう注意しながら、利用者への声掛けを行ない、職員全員で利用者に関わるようにする。

・職員同士がお互いに改善点を指摘しあえるような関係性を作る。

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人 本別町社会福祉協議会	代表者	会長 砂原 勝	法人・事業所の 特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・同建物内に地域交流施設があり、利用者は知人との繋がりが持てる。 ・地域自治会に参加しており、年2回地域交流事業を実施したり、災害時の避難訓練を合同で実施。 ・利用者一人一人の夢をかなえるため、職員は利用者に寄りそった介護ができています。 ・障がい者（児）の基準該当短期入所サービス受け入れの実施。
事業所名	本別北小規模多機能型 居宅介護事業所 「清流の里」	管理者	大井正栄		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	1人	4人	1人	1人	1人	0人	0人	0人	9人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見等	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	特になし	特になし	特になし	特になし
B. 事業所のしつらえ・環境	引き続き、感染防止対策を徹底する。 引き続き、来客時には、職員から積極的に声掛けし、来所者の動線を導く（手指消毒等も含めて）。 困りごと相談があった際のプライバシー配慮のために、建物内で空いているところすべてを柔軟に活用していく。	来客時の手指消毒や検温については、清流の里・あいの里職員で協力して対応にあたっている。 コロナの影響で、清流の里の中まで入ることができない場合には、あいの里の施設を利用して相談の対応ができる体制になっている。 コロナの影響で面会が制限される中、玄関先での対応が今後は多くなると考えられる。そのため、来客対応については、今後も引き続き、清流の里とあいの里交流センター職員で連携・協力し合うことが必要である。	コロナ禍で立ち入りが制限されたり、以前のように気軽に入っていくことができなくなったので、特にしつらえ等を把握する機会がなかった。	コロナ関連の事項が緩和されていくことを踏まえながら、感染防止対策を継続する。 引き続き、来客時には、職員から積極的に声掛けし、来所者の動線を導く。 困りごと相談があった際のプライバシー配慮のために、建物内で空いているところすべてを柔軟に活用していく。

<p>C. 事業所と地域のかかわり</p>	<p>コロナ禍であっても、引き続き地域との交流が途切れないようにする。 引き続き、事業所として職員や利用者は地域の行事・イベントに参加する。 困りごと相談があった場合には、来所だけではなく電話・訪問等により、相談を受け付ける。 社協だより・事業所だより等の広報で、事業所が困りごと相談の窓口になっていることを引き続き地域に PR していく。</p>	<p>結果としては、地域との交流機会は減少したままであるが、行事等の計画段階では地域（推進委員の協力含む）との交流を前提として計画し、コロナの影響を見て行事開催・中止・規模縮小等の判断をしている。 地域交流行事ができない代わりに、利用者の様子が見えるような写真を掲載した広報（清流の里だより）で事業所の取り組みをお知らせしている。 運営推進会議では、地域の困りごとについて協議を議題のひとつにしている。</p>	<p>コロナ禍であっても、事業所はできるだけ地域に関わろうとされている。地域のお祭りにも利用者と職員と一緒に来る機会もあった。一方で、地域との交流行事については、コロナや雨天の影響で中止等の判断をせざるを得なかった。事業所としては基本的には感染対策をしながら積極的に関わりを継続するという方針である。</p>	<p>コロナ禍で途切れつつあった地域との交流・絆を改めて強くし、コロナ禍前に戻せるように努める。 事業所として職員や利用者は地域の行事・イベントに積極的に参加する。 引き続き、困りごと相談があった場合には、来所だけではなく電話・訪問等により、相談を受け付ける。 社協だより・事業所だより等の広報で、事業所が困りごと相談の窓口になっていることを引き続き地域に PR していく。</p>
-----------------------	--	---	--	---

<p>D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み</p>	<p>引き続き、「清流の里だより」を通して、事業所の日々の取り組みや役割・機能について周知し、コロナ禍で行事等の集まりに参加できなくても、地域の方々と事業所のつながりが途切れないようにする。 ICT機器を活用し、直接会場に行けなくても、オンラインビデオ等で地域の方々等とのコミュニケーションができるようにする。</p>	<p>運営推進会議や広報等を通じて、地域の方々に対する理解が深まっている（顔と名前を覚える等）。事業所でも地域でも行事の再開が難しい状況ではあるが、きらめきタウンフェスティバルに行ったり、歴史民俗資料館に見学に行く等、利用者の外出の機会や地域に出向く機会を増やす取り組みをしている。 昨年引き続き地域との交流の機会が再開しにくい状況のため、清流の里だよりや、社協だより等を使って、今後も引き続き事業所の取り組みのPRを進めていく。</p>	<p>感染対策を講じながら、利用者・事業所と地域との関わりを継続してくれている。 事業所としてもなるべく地域行事等に利用者とともに関わりを持ち、利用者の暮らしに彩を与えられるよう努めている。</p>	<p>「清流の里だより」を通して、事業所の日々の取り組みや役割・機能について周知し、コロナ禍で弱まった地域の方々や事業所のつながりが復活できるように努める。 ICT機器を活用し、直接会場に行けなくても、オンラインビデオ等で地域の方々等とのコミュニケーションができるようにする。</p>
<p>E. 運営推進会議を活かした取組み</p>	<p>引き続き、人が集まることや、会合することが難しいコロナ禍においても、運営推進委員の方々と協力しながら介護サービスの提供と地域課題への取り組みを実施する方法について、協議・検討を重ね、地域とのつながりが途切れないようにしていく。</p>	<p>結果としては、今年度についても行事開催については、コロナの影響で外部の人の参加を厳しく制限せざるを得なかったため、委員の皆さまの参加は見合わせた。しかし、計画段階ではコロナ禍以前のように、推進委員の皆さまのご協力をいただく前提に計画するようにしている（今までのつながりを途切れさせるような行事計画にはしない）。 コロナの状況を見ながら、感染防止対策を講じた上で、なるべく従来通り対面で会議を開催することを前提にしている。</p>	<p>運営推進会議では事業所と利用状況の報告の他に、行事等の検討・協議、地域の困りごとなどが議題として挙げられている。令和2・3年度は書面開催で実施した部分もあるが、令和4年度は対面での推進会議開催を前提としている。</p>	<p>コロナ禍前に戻せるよう、運営推進委員の方々と協力しながら介護サービスの提供と地域課題への取り組みを実施する方法について、協議・検討を重ね、地域とのつながりが途切れないようにしていく。</p>
<p>F. 事業所の防災・災害対策</p>	<p>社協全体で災害時等業務継続計画（BCP）策定委員会にて計画を作成し、運営推進会議でも報告・周知する。 コロナ禍という厳しい状況ではあるが災害等はいつでも起こり得るため、防災・災害対策については、下記の通り、従来の取組み</p>	<p>数回のコロナ発生を踏まえて、感染症対策としても、消毒液や防護用品など必要物品を十分に備蓄している（事業所及び事務局にも）。 今年度は年3回避難訓練を実施。例年は自治会の協力を得て実施しているが、今年度については清</p>	<p>コロナ禍が落ち着くにつれて、地域自治会とともに訓練ができるようになればいいと思う。</p>	<p>社協全体で災害時等業務継続計画（BCP）策定委員会にて計画を作成し、運営推進会議でも報告・周知する。 災害・感染症等はいつでも起こり得るため、防災・災害対策については、下記の取り組みを引き続き継続する。</p>

	<p>みを引き続き継続する。 引き続き、災害等、有事のための備蓄については継続していく。 引き続き、清流町自治会の協力を得ながら行なった避難訓練について、さらに協働できる事項については必要に応じて随時、協議・整理していく。</p>	<p>流の里のみで実施。1回目は水害想定避難訓練、2回目・3回目については通常の避難訓練を実施（3回目は10月予定）。 災害時等業務継続計画（BCP）の策定は進んでおり、令和5年度中に完成予定である。</p>		<p>災害等、有事のための備蓄については継続していく。 引き続き、清流町自治会の協力を得ながら行なった避難訓練について、さらに協働できる事項については必要に応じて随時、協議・整理していく。</p>
--	---	--	--	--

